

お知らせページ

第27回 認知症ケアワーキング

日時：10月24日(日) 10:00～12:00
会場：セントラルプラザ10階
テーマ：「認知症と生活援助」
申し込み先：03-3787-3117(FAX) 藤原宛

認知症学習会 テーマ事例を中心に学ぶ

日時：10月29日(金) 18:30～
会場：北診療所会議室

第8回東京地方自治研究集会

日時：11月3日(水・祝) 9:30～
会場：明治大学リバティータワー
記念講演
「石原都政12年の検証と
新しい都政へ向けての提言」
講師：渡辺治(一ツ橋大学)

東京の介護を良くする会

日時：11月21日(日)13:00～
会場：ラパスホール
テーマ：「医療行為を考える」



「南足柄市運動公園リコリスの丘での彼岸花と2匹の蝶」
撮影：北出千万城

シンポジウム ～社会保障憲章・基本法の提起～

日時：10月24日(日) 13:30～17:00
会場：全電通労働会館ホール
参加費：500円
申し込み：不要
主催：福祉国家と基本法研究会

第22回東京高齢者大会

日時：10月27日(水) 13:30～
会場：みらい座いけぶくろ(豊島公会堂)
記念講演：「高齢者のいのちと憲法25条」

「世界のヘルパーさんと出会う旅」 No.11 台湾の打ち合わせ

日時：10月31日(日)15:00～
場所：八戸

ヘルパー望年会だよ！ ♪じゅん・じゅんコンサート♪

日時：12月11日(土)
一部 18:00～ 二部 20:00～
会場：飯田橋・ライブ居酒屋
参加費
一部：2500円(ワン・ドリンク付き)
二部：2000円(飲み放題・7品付き)
おなじみの福島「阿部純さん」、「渡辺潤さん」
ニューフェイス「みながわじゅんさん」、「中山じゅんさん」
ゲスト の・かよさん

共に介護を学びあい 励まし合いネットワーク

〒142-0063
東京都品川区荏原1-24-23 角田アパート1F
Tel・Fax：03-3787-3117
編集責任者：藤原るか

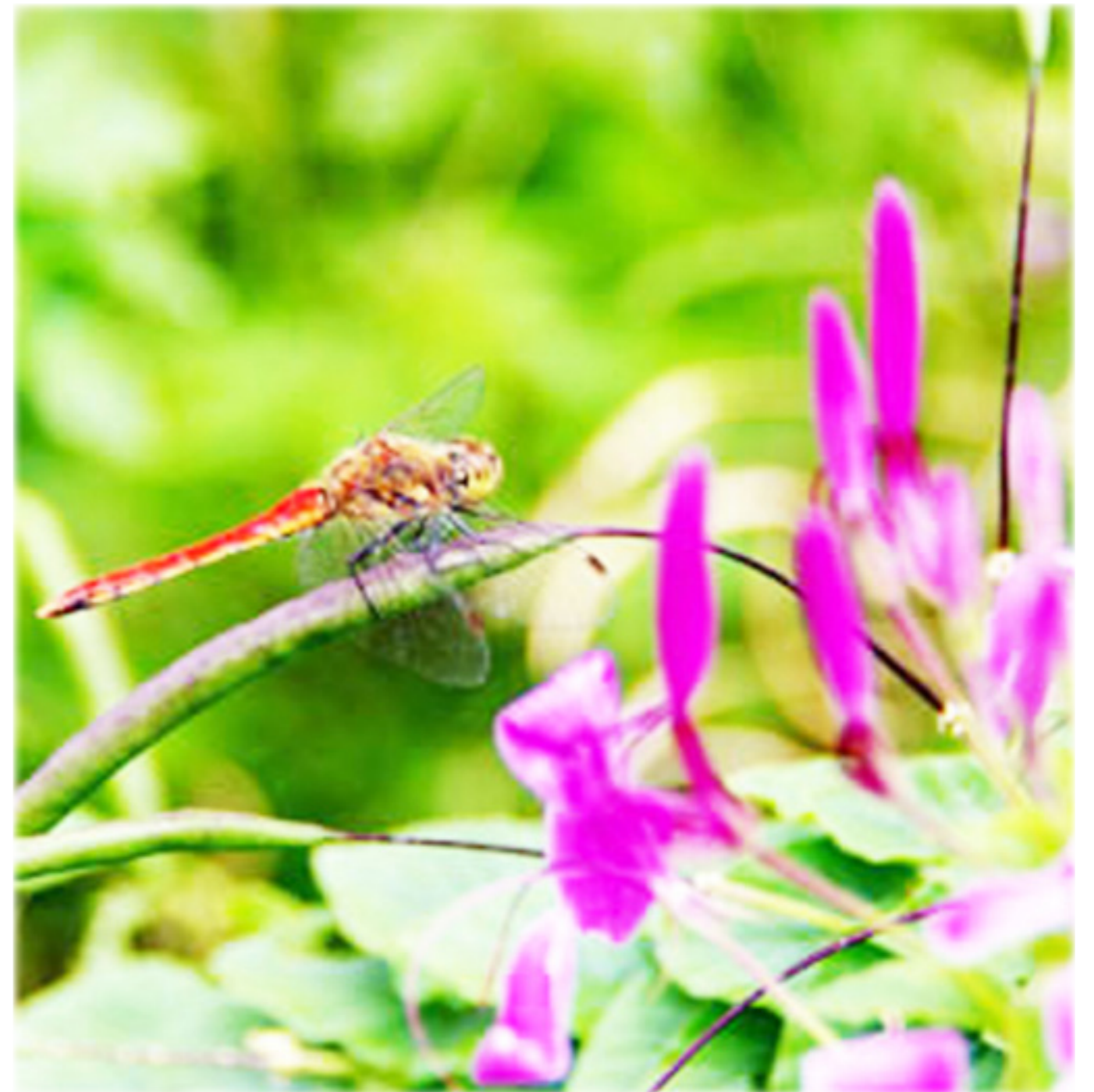
CLA だより 第15号

10/10/17

発行：共に介護を学びあい・励まし合いネットワーク



「CLA(クラ)」はラテン語で憂い、辛さ、気遣い、共感などと云った意味で、英語のキューアやケアの語源です。



「昭和記念公園のクレオメとトンボ」 撮影：北出千万城

世界のヘルパーさんと出会う旅 イギリス・オランダ ② 2010年7月7日(水)～15日(木)

各国の「ホームヘルパーさんと出会う旅」をしながら感じることは、毎度なのですが、「労働基準法」遵守の当たり前姿と日本の業界と政府のいい加減さに腹が立ったり、幻滅したりですが、イギリス（リーズ市）のヘルパーさんとの出会いも同じでした。ホームヘルプの労働内容は制度が違っていても、どの国も（デンマークは違いがありました）「生活援助」「身体介護」「相談助言」の3つの柱が一体的に取り組みされており、イギリスの労働環境は、北欧よりも現在は保障されています。①訪問先に2人1組体制・常時である事、②2週間サイクルのローテーション勤務で、1週目は週4日勤務、2週目は週3日勤務という内容でした。2週間の内1週間はお休みという保障された環境です。その他に有給休暇は40日という説明でした。労働特徴からくる配慮なのか？といった歴史的経過からくるものか？といった聞き取り等は時間切れで、次回の訪問時となりますが、「ホームヘルプ発祥の地・イギリス」は労働者にも当事者にも手厚いことが伺われました。

さて、今回の番外編は質問の多い「どのようにしたら安く旅の企画ができるのか？」について英語も出来ない（笑い）企画者としてお答えしたいと思います。

まず、仲間と日程を調整します。次に大まかな費用計算をしてみます。計算の際には「いかに安く、楽しむか」をモットーにして企画しています。

格安で出かけるためには「航空運賃」と「宿泊費」を切り詰めるのが一番の近道です。「航空運賃」はネットでチェックします。驚く程、安い値段が出ていますが、具体的にアクセスしてみますと、「サーチャージや航空使用税が別」といったものが多く結局、+3万～4万ということになります。たまたまのディスカウントに出会える時もありますし、もっぱら格安として「ロシア」や「中華」等は有名ですが、それなりのサービス内容であるこ

とを覚悟しなければなりません。今回のイギリスツアーでいえば、旅行季節のハイ・シーズン（夏休み）で「高い」と覚悟をしていたため、はじめから「マレーシア」と「中華」にアタックしました。慣れた方は直前の「格安」を狙う手もありますが、一応個人旅行に毛がはえていても、ツアー企画なので、直前まで乗る飛行機がわかりませんという訳にもいかず、「中華航空」を選びました。もちろんイギリス・リーズ市への直行便ではありません。（メンバーの殆んどは日程的な問題もあって「オランダ航空」の直行便でワン・フライトがオランダに立ち寄れるタイプです。運賃は5万円プラスになりました。）格安組は到着先を「ロンドン」とした。それはどの航空会社も常時飛ばしている先なのでハイ・シーズンでも一応格安になるかな？との計算からです。結局、9万円の航空運賃になりました。

交通ルートは成田から北京に立ち寄り、乗り換えてロンドンに向かいそこから、鉄道でリーズへ入り、今度は船でオランダへ渡り、最後にオランダからロンドンに戻るといったスケジュールを組んだ訳です。



介護学習セミナー

「地域包括ケアシステム」とは

～国が描く介護の将来像を探る～

日時：10月30日(土)

24時間 365日の介護

14:30～16:30

自助・互助を求めるシステムとは

場所：中野勤労福祉会館大会議室

高齢者人口 3500万人超

資料代：組合員 300円

介護職の医療行為問題

非組合員 500円

国はどんなシステムを描くのか

内容：講演

講師

山平 久雄氏
(全日本民医連介護福祉部員)

内容

高齢者人口がピークに達する
2025年に向け、厚生労働省
が考えている新たな介護・福祉
システムの中身を解説します。



主催：東京医労連ヘルパー協議会

連絡先/東京都台東区入谷1-9-5

日本医療労働会館6F

電話：03(3872)7191

FAX：03(3876)3173

担当：西銘 椎野

厚労省前で抗議する 91歳のヘルパーさん

いけだ のぶえ
高松・池田 展江さん

毎年、冬の厚生労働省前で取り組まれる老地連（全国老後保障地域団体連絡会）の座り込み闘争に、高松から参加しているのが池田展江さんです。1919年生まれで、現役のヘルパーとしても働いています。その元気にふれてきました。

「この寒いのに、東京までお金使
うて行って、どうするん？」「展
江さんが座り込みしても、この世
のなか、ひとつも良くなるんで」
って言う人もおる。でも、黙って



池田さん

黙っているより、まず行動

後期高齢者医療制度は、年寄り
は十分な治療をせんでもいい、し
てほしかったら自分でお金を払
え、という年寄り差別じゃ。

厚生労働省前での座り込みに
は、夜行列車やバスで行くんですよ。

るよりましよ。黙っといたら政府
の思う通りにされるけん。
厚労省で要求書を読み上げたこ
ともあるよ。大臣はおらんけど、
役人はおるやろ。あとは言いたい
放題言うて帰ってきた。
座り込みは、毛布もテントもあ
るから寒くはない。でも数年前、
事務局の人に「夜はホテルで休ん
で」と言われた。私は「死んでも
いい」って言うたけど、「それじ
ゃあ、こつちが困る」と……。
三日間道路に座り込んでい
ると、道行く人が声をかけてくれる。
新聞やテレビの報道を見て、わざ
わざ会いに来てくれる人もいる。
厚労省の職員が「がんばって」と
言いに来てくれたこともあるよ。
激励の色紙や寄せ書きは、箱に入
れて大切にしよう。

福祉のひろば 2010年10月号(かもがわ出版)より転載。
次号に続きを掲載する予定です。



イギリス国内の移動にはフリーチケットを日本から購入しました。イギリスは鉄道王国です。日本のとり鉄ファンならきっと一度は行ってみたい国でしょう。実際はNPO等を中心に鉄道保存をしている関係もあり、とにかく運賃が「高い」のでフリーチケット3万円を買っても2回乗れば、元が取れます。オランダからロンドンへの帰り道は、以前からあがれていた「タリス+ユーロスター」のチケットを購入しました。こちらは大陸を300Kmで走る日本と言えば新幹線です。東京～大阪位の距離で、オランダ→ベルギー（乗り換え）フランス→（ドーバー海峡をトンネルで抜け）ロンドンに到着してゆくというコースで約3時間30分。チケットは日本から購入でき、こちらは8千円とネットや旅行案内書で調べたものより半額近く安く、おどろきました。円高のおかげだったようです。一度は聞いて、相談してみることを実感しました。相談・購入先は「地球の歩き方」事務所です。



ユーロスター(アムステルダム～ベルギー)



ユーロスター(ベルギー～パリ～ロンドン)

計画の次は宿泊先を選ぶことです。格安の宿泊先はなんとと言っても「ユースホステル」です。会員になるのには2500円かかりますが、イギリスはやや高めでも1泊3500円。

ベルギーは2000円でした（ベルギーの予約は入れておきましたが、船で移動しない場合のためでしたので実際は使っていません）。予約はユースホステル協会に依頼すれば簡単で宿泊費の1割を支払えばよいので負担感はありません。今回はロンドン2泊とヨーク1泊を使用しました。

飛び立つ準備は、自炊もできるので食材を購入したりして、食事の計画をたてますが、おせんべい等は同屋になった、他の国の方に配ったりして楽しめます。今回泊まったユースには日本から留学していた精神科ドクターとカナダの方からいろいろ現地の情報をもらったりして交流できました。いままでも、なんとか片言英語でその国の「アイ・ラブ・ユー」をしゃべり、きっかけをつくったり、日本の漢字がはやっていることなどがわかり、適当な漢字で相手の方の名前をシャツに書いたりと交流して、トラブルに巻き込まれたり、嫌な思いをしたことはありません。ヨークのユースでは個室が取れましたので、ゆっくり休めました。しかし、難点もあります。とにかく現地がはじめてなので「不案内」甚だしく、駅から離れた不便な所にあることが多いです。今回もヨークはバス亭が探せず（ターミナルから少し離れた所にあった）リーズでの懇親会に出られない事態となってしまいました。本当に残念でしたし、関係者のみなさんにはご迷惑をかける結果となったことは、反省点です。しかし、安さと街で宿を探し回る楽しさはお勧めです（時間がかかることを計算に入れて下さい）。



リーズでの懇談会の様子①
(ジーン・サンツェットリーズ大学教授の私邸に夕食招待)

本来ユースは青年のための施設としてスタートしていますが、各国とも、どの世代の方も気軽に泊まっている「宿」と変身しています。ヨークの夕食はとても豪華で美味しく（メニューは3種類）付け合せは選べるタイプでした。1000円位です。生ビールもバーがあって、頂きました！こちらはユースとしてはいたれり、つくせりでした。街並みも「中世」に戻った感があり今度はゆっくり訪ねたい所です。

ロンドンでは普段でしたら5～6万円の航空チケット



リーズでの懇談会の様子②
(ジーン・サンセットリーズ大学教授の私邸に夕食招待)



ロンドンのパブ

トで行けます。ロンドンは、安く最高の席で見られた「ミュージカル」（日本の半額以下）の構成力や踊りのすばらしさ等の心のお土産をもらった、番外編（イギリスでの2日間）となりました。

ロンドンでは2階建てバスと地下鉄の乗り放題チケットが1日290円で購入でき、バッキンガム宮殿の衛兵の交代やイギリス国会議事堂、時計台等を見てまわりました。

夜は2日間とも「労働運動発祥の場所」パブで生ビールを楽しみました。なんといっても、日本の倍の大きさのジョッキが日本と同じ値段でしたし、その種類の多い事（生ビールが8種類・ビンビールは数えられない程です）ビール好きの方には堪えられない場所です。

当日はサッカー中継があることでどのパブも人で一杯で活気があり、ビール瓶やグラスが数多く割られるほどの賑わいでしたが、中継が終わると人も去り、普段の落ち着きを見せていました。フィッシュ&チップスは1人分で2人が十分食べられる量で、ビールのつまみにはピッタリでした。旅行前半の写真は電源の差込ソケットが合わず（万国共通バージョンのソケットのはずなのですが）、電源が取れないことから、紹介写真がありません。文章力でもカバーできませんことをお詫言いたします。読者の皆さんは想像力たくましい方と推察しておりますので、お楽しみ頂けましたでしょうか？

次号では「第五回国際家族ケア学会」の様子を通訳に入った渡辺まどかさんがレポートしますので乞うご期待下さい。



国会で論議されている 24 時間 365 日 「なんとかしないと！」

24 時間型短時間巡回型の導入について

「現在の滞在型中心の訪問介護では要介護者の在宅生活を支えることは困難である」という見解で、20分未満の短時間訪問を中心とする。国の構想では、30分圏域の地域ケア構想（包括ケアシステム）があります。ここに標準を定めて、15分という巡回型が有効という見解を示していると思われます。また、欧州で取り入れられているシステムを見本としているようにも見受けられます。こちらの方は解釈で都合の良いところだけをピックアップしているようです。

今夏訪れたリーズ市でも、介護職の訪問範囲は移動時間も労働時間に組み入れても支障が生じない、ごく狭いエリア内での活動。これはデンマーク等北欧でも見られたことです。しかし、そこで問題になるのが業務内容と地域事情。もしかしたら、国の担当者の頭の中には介護職の業務は「おむつ交換」しかないのでは？

欧州にみられる食生活（温かい食事は1日1回、あとは冷たい食事を普通としている）で、介護職の食事の準備はサンドイッチと飲み物をセッティングするだけでした。日本の食文化とは隔たりがあり、満足を得られないことなどは無視？国民の生活のあり方そのものを考えないで、介護職の業務を「定められた事を行うだけ」とみているのでは？そこに、医行為も含めて、手技と看護師不足を安上がりな介護職で解決できると安易に考えて施策を進めているのでは？イギリスでは新しいケアのあり方が検討され実践されています。そんなところをきちんと見てほしい。介護課題を解決する有効な方法は何か。時間と金だけではなく、もっと暮らしを広く見てほしいと思うのです。

(桜井和代「ホームヘルパーの広場」より転載)

	移動手段	短時間訪問プラン	賃金や身分
スウェーデン (ストックホルム)	徒歩圏内	次の訪問先に別のヘルパーを向かわせる体制が常に有り	公務員 (約34万円)
デンマーク (コペンハーゲン)	自転車	10分単位、時間延長になるようなプランは組まない	公務員 (約32万円)
ドイツ (フランクフルト)	車・自転車	同上	事務所に補助金有り 民間・パート 同一労働・同一賃金 (約36万円)
オーストラリア (シドニー)	車	週3回以上の訪問が必要な方は施設入所となる 短時間訪問はない	半官・半民 (約25万円)
イギリス (リーズ)	徒歩・車 自転車	10分単位から必要な時間で訪問有り 2人1組で訪問	社協職員 (固定給制)
オランダ (ライスウィク)	自転車	10分単位から必要な時間で訪問有り	固定時間労働制 (同一労働・同一賃金)

(「世界のヘルパーさんと出会う旅」より)

(プランに基づく充実した日中の「訪問」+「夜間巡回」が各国共保障されています。

注：夜間巡回は地域に一箇所、別立てのチームという所が多い)